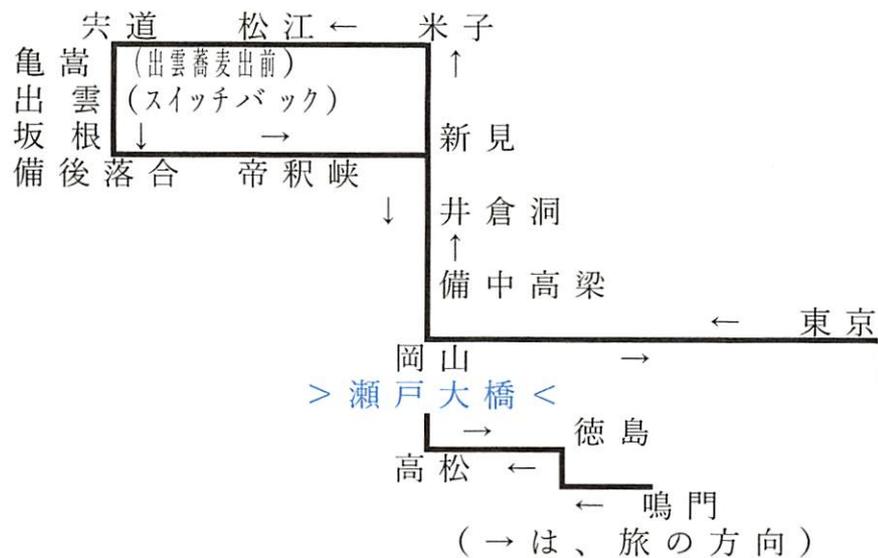


中国・四国

あちら、こちら

(第4版)

* 2023, 7, 2 (日) ~ 6 (木)



目覚めれば
青嶺迫りし
寝台車
青嶺迫る
寝台列車
朝運ぶ



青嶺行く

スイッチバック

三度して



* スイッチバックの線路。写真中央の白い標識には、30の数字がある。千m水平に進むと30m下がるの意味で、一番勾配がきつい区間だ。

山滴る

ホームへ出前

出雲蕎麦

目には青嶺

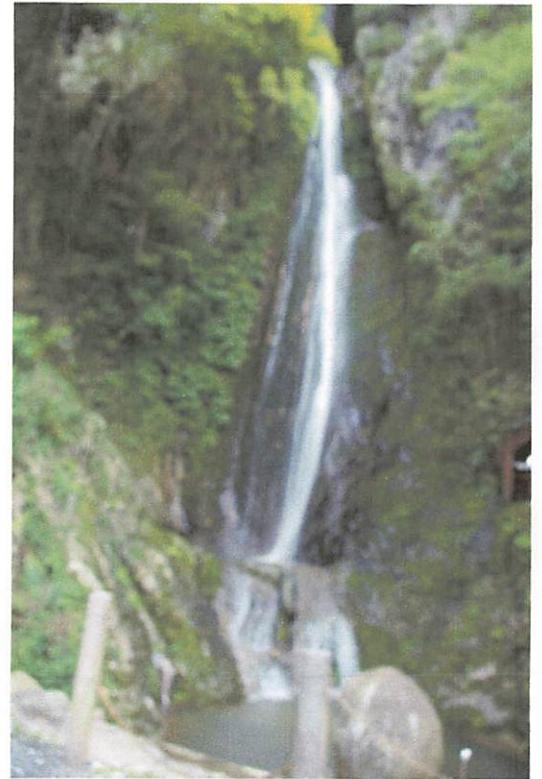
出雲の旅は

舌に蕎麦



* 木次線亀高では、予約すると、ホームまで出雲蕎麦を出前してくれます。

幽谷に
滝一条の
絹を掛け



螢火や

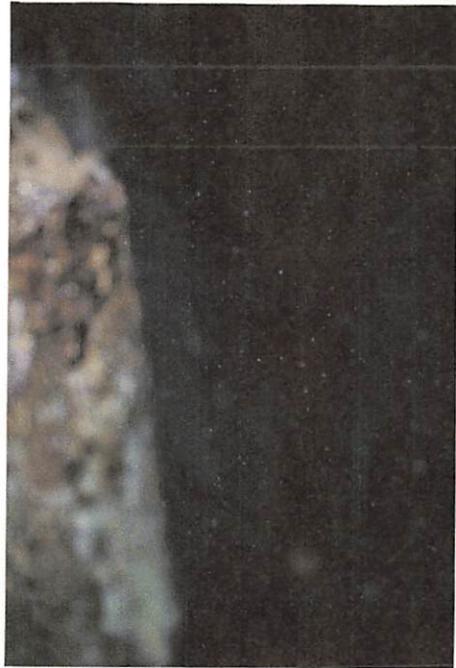
枝の間そら宙に

消へてまた

螢火や

命は子へと

短くも



← なが見せ？のす。
さがまか螢で
小点えん光

渦と渦

大きく一つ

夏の潮

渦二つ

一つになりし

夏の潮



ベンガラの

格子の家並み

赤とんぼ



(備中高梁市、ベンガラの街)

<旅の終わりに>

今回の旅のエピソードを紹介します。

【第1話】

特急サンライズ出雲でシャワー券を
買おうとしたら売り切れ。後ろから韓
国風の青年が、「どうぞ。」とカードを
くれた。
シャワーでさっぱりし、缶ビールを
飲んで、夢路についた。
カードは、1枚千円もする。青年の好
意に感謝している。

【第2話】

* 宿の人の好意 (帝釈峽 = たいしゃくきょう) ①
この宿には、蛍が見たいと言って
申し込んだ。後日宿から、地域が主催
する蛍ツアーが1週間延びたとの連絡
が入った。しかし、蛍がいる所へは宿行
の予定通り決行！
源氏蛍が棲息している。
高木川の面を飛び回っている。肉
目の居る所から離れているので、
眼で蛍火が見えたら、宿の人が姫
所へ案内してくれました。姫は体が小
いので、高い所は飛ばせません。と
何とかが映したのが、掲載の写
私謝している。察してくれた宿の人に感

* 宿の人の好意 ②

帝釈峽がある駅へ宿の人が車で迎えに
来てくれた。帝釈峽の見所の一つの
「御橋(おんばし)は、宿から歩いて行けま
すか？」と聞いたら、「それなら、御
橋近くの駐車場へ行くから、そこから
歩いて行きなさい。」と言われた。駐
車場から先へは車が入れないのだ。し
かし、駐車場から御橋迄、徒歩で往復

すると、約40分かかると、車で待っていてくれた。宿の人は私が戻

【第3話】

井倉洞がある井倉駅は、乗降客が少な
く、ふだん事前に予約しておい
クシがタクシ(一乗)が私に「何処まで
女性くんか？」と聞いてきた。私が
行「初めて井倉溪谷に行き、滝の写
撮ってタクシーを捨てて見学し、歩
で迄戻ります。」と言ったら、駅員は「こ
の暑さの中で、この荷物は無理よ。」と
の言い、更に運転手に向かかって、「運
言さんもこのお客さんに、無理だと言
やと運転手は、「それなら駅員さん、お
さん荷物を預かってやんなよ。」と逆
襲。駅員は「駅ではお客の荷物は預
ないんだけども…」と言いながら、洗
荷物預かってくれた。駅員と運転手
好意に感謝!

【第4話】

今度のは、鳴門の観潮船の船員からの好
意の話。渦潮をなるべく良いアングルでと、1
等船室を奮発した。客は私一人。船員が
渦潮が良く見える船の位置を案内してく
れ。こうして撮ったのが、掲載の写
の2葉だ。

【第5話】

高松駅で、「サンライズ瀬戸」の発車
まで時間があるので、案内所でスーパ
銭湯の場所を聞き、市電に一駅乗った。
市電を降りると、2人の女子中学生
(高校生?)が話の最中。私がスーパ
銭湯の道を尋ねると、スマホを取り出し、

